



増刊号

平成26年3月1日発行
 全国公立高等学校事務職員協会
<http://zenjikyo2.jp/>
 事務局：東京都立小山台高等学校
 電話：03-3714-8155
 東京都品川区小山3-3-32

第67回全国大会は岩手県盛岡市『(マリオス)盛岡市民文化ホール』を主会場として平成26年7月23日～25日に開催されます。

開催案内が、平成26年3月1日付けで岩手県実行委員会から発送されます。これを受けて全国協会では分科会の概要についてお知らせします。研究発表のコメントも掲載しましたので、大会参加希望者が分科会を選択する際の参考になれば幸いです。



北上川と岩手山：盛岡（提供：岩手県実行委員会）

平成26年度第67回全国公立高等学校事務職員研究大会（岩手大会）

- | | | | | |
|---|-------|---------------|----------------------|-------------------|
| 1 | 期日・会場 | (1)全国理事会 | 平成26年7月23日（水） | |
| | | (2)研究大会 | 平成26年7月23日（水）～25日（金） | |
| | | ・特別分科会 | 陸前高田市視察・大槌町視察 | |
| | | ・全体会 | （マリオス）盛岡市民文化ホール | |
| | | ・第1分科会 | （マリオス）盛岡市民文化ホール | |
| | | ・第2分科会 | （アイーナ）いわて県民情報交流センター | |
| | | ・第3分科会 | （マリオス）盛岡市民文化ホール | |
| 2 | 日 程 | 平成26年7月23日（水） | 8：30～18：30 | 特別分科会 |
| | | | 15：30～17：00 | 全国理事会 |
| | | 平成26年7月24日（木） | 12：30～17：30 | 開会式、文部科学省講話 |
| | | 平成26年7月25日（金） | 9：20～16：15 | 全体会、総会
分科会、閉会式 |

第67回全国公立高等学校事務職員研究大会 岩手県実行委員長 金野武彦

第66回岐阜大会が、岐阜県実行委員会の皆様のご努力で成功裏に終了したことに敬意を表します。

第67回大会は、本年7月23日から25日まで、昭和35年以来54年ぶりに岩手で開催されます。

「東北へ 届くようにと空を見る 星の数だけあふれる思い」－短歌甲子園2013で福岡県の高校生が詠んだ震災復興応援歌です。東日本大震災以降初めての東北支部開催となりますが、その思いは本当にありがたく、また、多くの皆様からのご支援に深く感謝を申し上げます。復興の速度はそれぞれの地域でそれぞれの事情から温度差があり一歩一歩の歩みですが、忘れない思いと加速化に向けて引き続きご支援をお願いいたします。

少子化や特別支援教育、防災体制等に対応する教育環境整備、授業料無償化等の制度改正への対応等、学校教育をとりまく環境が多様化する中で、本大会が、会員の皆様の研究協議、討議により、直接、間接に、次世代を担う子供たちのため、よりよい教育環境づくりを目指す業務改善につながればよいと願います。

岩手には、岩手山を代表とする豊かな山々、八幡平や小岩井農場等の広々とした高原、三陸復興国立公園の美しい海岸線など、恵まれた自然景観のほか、宮沢賢治を始めとした偉人や世界遺産の平泉など、歴史や文化に関する多くの施設や史跡、さらには、盛岡冷麺、わんこそばに代表する食文化があり、そこには優しいまなざしと温かい手をさしのべてくれる岩手の人々がいます。

本大会の開催にあたり、会場を盛岡駅に隣接の催事場にするなど、皆様が参加しやすい環境づくりに努め準備をしております。本大会が、皆様にとりまして”じぇいじぇい”とたまげて職場の活性化につながり”どんどはれ”と盛会に終了し、本協会の躍進の起点となるよう、多くの皆様の参加をお待ちいたします。

全体会（講演）講師プロフィール

○ 戸羽 太 氏 （とば ふとし）

「略歴」 神奈川県出身 49歳

平成7年陸前高田市市議会議員、市助役、副市長を経て平成23年2月13日陸前高田市長就任

平成23年3月11日14時46分 マグニチュード9.0、震度6弱の地震と大津波の東日本大震災が発生、市長就任直後に壊滅的な被害を受けた陸前高田市。

自ら被災しながらも、子供たちの未来のため、市民が安心して暮らし、働くことのできるまちをつくるため、全力をあげ復興のまちづくりを進めている。

津波の脅威を世界に伝えるモニュメントとして、奇跡の一本松の保存を決断。

「世界に誇れる美しいまちの創造」をコンセプトに来訪者が笑顔で過ごせる「ノーマライゼーション」という言葉のいらない美しいまち」づくりを目指している。

「著書」 「被災地の本当の話をしよう」～陸前高田市長が綴るあの日とこれから～

（ワニブックスPLUE新書2011年8月）

「がんばっぺし！ ぺしぺしぺし！」（大和出版 2013年3月）

第67回全国大会（岩手大会）特別分科会案内

特別分科会 ～東日本大震災から学ぶ～

目 的 平成26年度全国大会は東北支部・岩手県で開催されますが、東日本大震災で未曾有の被害を受けた地域であり、現在でも復興は思うように進んでいない状況です。全国大会岩手大会が開催される時期は震災から3年余りが経過しますが、震災の爪あとや復興の状況等を視察するとともに被災者の話を聞き、当時の状況を知ることにより自然災害の脅威や災害に対する備え等を改めて認識する機会とします。

現地を見て、聞いて、感じたことを各協会に持ち帰り、現在の状況を多くの方に伝えることにより、今後の学校運営、危機管理、災害対策に役立てます。

日 程 平成26年7月23日(水) 8時30分 盛岡駅西口バスターミナル 出発
陸前高田市視察・大槌町視察 18時30分頃 盛岡駅で解散

※ 移動中の車内で被災された事務職員の体験談をうかがい、現地ではボランティアの方々の案内を受ける予定です。

費 用 弁当代 1,000円(税込み)

定 員 100名(各協会より2名) 大型バス2台(参加者が少ない場合は中止にすることもあります。)

申込方法 全国大会に参加される方で、特別分科会も希望される方は、各協会を通じて申し込んでください。

第1分科会

- メインテーマ 学校組織マネジメント
- サブテーマ 学校経営への参画

◎研究発表(午前の部)

- ①「学校運営への参画」 ～オフィススタッフからゼネラルスタッフへ～
 山口県立萩総合支援学校 主事 藤田 智史
 学校の組織力の向上を図るため、事務職員及び教頭を対象としたアンケート調査を踏まえ、学校現場でのより具体的な取組を提案するもの。事務職員が今後一層、学校運営に参画していく中で「事務職員と教員間の共通理解を深めること」「教職員の資質能力の向上」「事務の効率化」の3点が特に重要であり、意識改革を行い、(問題対応型)オフィススタッフから(進行管理型)ゼネラルスタッフへと変わっていくことが求められている。
- ②あなたの学校は大丈夫? — 今日からできる危機管理 —
 静岡県立御殿場高等学校 主任 柳原 正卓
 静岡県立沼津商業高等学校 主任 真野 聡
 静岡県立富士高等学校 主事 野崎 憲太郎
 毎年、USBメモリの紛失やPC盗難等による個人情報の流出、サッカーゴールの転倒による事故等、場合によっては、個人、管理者の責任が問われる事件が発生している。そのような大きな事件、事故が起きる前の危機管理において、事務職員一人ひとりが日頃から心掛けるべきではない「知る」「気付く」ことを主題とし、誰でも活用できるチェックシートの作成を行った。併せて、学校で起きた事件、事故に係わる損害賠償請求がなされることがあることから、事務職員の法的立場を確認・整理した。
- ③「学校で取り組む地震対策」
 和歌山県立みくまの支援学校 主査 丸本 宗
 和歌山県立串本古座高等学校 串本キャンパス 主事 岩本 昌浩
 南海トラフ巨大地震が発生した場合、太平洋に面し南海トラフに近い和歌山県では甚大な被害が予想されており、これを最小限に食い止め、児童生徒・教職員の命を守ることが重要な課題となっている。揺れによる死傷者を出さないこと、津波から安全に避難させることを中心に、事前にどのような備えが必要なのか等、減災について事務職員として取り組まなければならないことを考えてみたい。

◎シンポジウム(午後の部)

- I 基調講演
 ○仮題 「学校組織マネジメントにおける事務職員の役割」
 ○講師 東京学芸大学教授 佐々木 幸寿氏

- II シンポジウム
 ○仮題 「事務職員の役割、実践例と課題」
 ～積極的に学校経営に参画しよう～
 ○パネリスト
 1 東京学芸大学教授 佐々木 幸寿氏
 2 岩手県立花泉高等学校事務長 鈴木 典子氏
 3 岩手県立盛岡農業高等学校主事 太田 弘志氏

○問題提起
 平成10年の中央教育審議会の答申や平成12年の教育改革国民会議の報告に組織マネジメントの考えが取り入れられ、平成17年2月には、文部科学省より学校組織マネジメント研修～すべての事務職員のために～(モデル・カリキュラム)」が発行された。学校組織マネジメントについて事務職員にも重要な役割が期待されている。

学校組織マネジメントは、「学校経営計画を達成するため、学校内外の人的、物的、材的等の諸資源を活用しつつ、教育活動のPDCAマネジメント・サイクルに一定の成果と効率をもたらす組織的・能動的活動である。」と定義される。同じような言葉を多くの事務職員は耳にしていると思う。しかしながら、日常業務に追われ、学校経営計画を達成することを意識しながら仕事をしている事務職員は少ないだろう。

そこで、学校組織マネジメントの実践と事務職員の役割について、具体的な実践例を学び、学校組織マネジメントはどのようなものか、事務職員の役割は何か、何ができるのか等について、考えて行きたい。

一例として、事務職員も積極的に学校経営に参画していくことが求められており、事務職員として、学校組織マネジメントを推進していくにあたり、学校経営の課題を認識し、如何にして学校経営の改善に寄与できるか、一翼を担えるか。併せて学校の様々な取組みにどのように関わっていくことができるかを事務長、事務職員双方の立場から討議したい。

- 討議の3本柱
 1 事務職員における学校組織マネジメント。
 2 事務職員の視点をどのように活かすか。
 3 事務職員の実践例と課題について考える。

第2分科会

- メインテーマ 業務の改善と効率化
- サブテーマ 実践と提案

◎研究発表(午前の部)

- ①これさえあれば OJT 資料を活用してみよう
北海道立奥尻高等学校 主任主事 氏川 里恵
北海道立檜山北高等学校 事務職員 三上 瑞乃
研究発表を行う檜山支部はほとんどが小規模校という状況で、新採用の事務職員や職務換えの事務職員に対する十分な OJT を行う事が難しい環境にあります。そのような環境の中で校務を円滑に進めるためには効率の良い資料が不可欠です。そこで平成 21 年度に北海道公立学校事務長会より配付された「効果的な OJT の進め方」を基に、現在の学校現場に合うよう業務内容を見直してスケジュール表を作成しました。
- ②知っておきたい！！漏水被害防止のすゝめ(基礎編)
茨城県立波崎柳川高等学校 主事 井野場 文晃
茨城県立麻生高等学校 主任 大平 卓也
漏水に関する研究です。県内の県立高校に対して行ったアンケートや、研究委員が実際に対応したケース等を基に、漏水の早期発見や、漏水箇所の絞り込み・特定、修繕・処置についての研究を行いました。
発表の構成は、初めに経験や事例から導き出された一般論を述べ、後に具体的な事例(研究委員の勤務する学校で実際に起きた事例やアンケートで寄せられた事例のうち、特に参考になりそうなもの)を紹介する形式をとっています。
- ③定期監査や会計実地検査から見える学校事務職員の課題
石川県立金沢泉丘高等学校 主事 浅川 理佳子
石川県立金沢泉丘高等学校 企画管理専門員 谷鋪 繁
毎年行われている定期監査や 2 年に一度の会計実地検査の際に受ける指摘や注意事項の件数が近年増加してきていることを受け、その内容等の分析を行うために全ての学校に対しアンケート調査を実施したところ、学校事務職員の現状や課題が浮き彫りになってきた。この結果を受け、学校事務職員の立場から行える解決策の一つとして、今までとは違った観点から見た事務引継書の作成に取り組んだ。

◎シンポジウム(午後の部)

- I 基調講演
○仮題 「いきいきと働き続けるために」
○講師 (株)東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長 渥美 由喜 氏
- II シンポジウム
○仮題 「ワーク・ライフ・バランスを実現するために」
～残業ありきの仕事からの脱却～
○パネリスト
1 (株)東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長 渥美 由喜 氏
2 岩手県男女共同参画センター総括・事業主任 晴山 玲美 氏
3 岩手県立北上翔南高等学校事務長 堀井 祐輔 氏
- 問題提起
ここ数年、職場での職員定数が減り、一方で仕事は増え続けている。残業が常態化し、子育てなどで時間的に制約のある職員は、気を使いながら仕事に従事している。また「介護」は、男女を問わず、働き盛りの職員が直面する問題であり、休業や退職まで追い込まれたりしている。すでに長時間労働等によって退職者が増え、その負担がまた退職者を生み出すという悪循環も生じている。限界にきているといえないだろうか。
こうした現状について、事務室全員で真剣に検討し、効率化を推進しながら働き方を見直してきたらどうか。定数の問題や職員の問題とあきらめてしまっていないだろうか。
「ワーク・ライフ・バランス」という言葉がある。仕事と生活との調和を図り、相互により影響を与え合うと定義される。限られた時間の中で「お互い様の精神」で仕事の効率化を進める。そのことで、減った超勤時間を自分の時間や家族・友人と過ごす時間に当てられる。この私生活の充実が、仕事への意欲だけでなく、様々な業種の人たちとの出会いを生み、仕事へのヒントを得ることにつながる。
今回の研究大会では、ワーク・ライフ・バランスの真意について、具体的な手法と実践例から学ぶ。そして、ワーク・ライフ・バランス推進のためには何が必要か、それを共に考えたい。この学びによって、事務室としてどのような組織運営(チームマネジメント)をしていくか、ひいては、個人としてどのような働き方をしていくべきなのかを考える機会としたい。
- 討議の3本柱
1 残業削減の実践例と課題
2 職員・組織双方のメリット
3 職場でのワーク・ライフ・バランスを進める上でのチームマネジメント

第3分科会

- メインテーマ 今日の課題への提言
- サブテーマ 多様な視点からの学校づくりを考える

◎研究発表(午前の部)

①「グループ研修」～お邪魔します！となりの書類訪問～

青森県立五戸高等学校 主査 中崎 崇
青森県立八戸商業高等学校 主査 宇部 実智
青森県立八戸工業高等学校 主事 江渡 寛規
青森県立三戸高等学校 主事 山口 涼佳
青森県立八戸第一養護学校 主事 小林 由季

平成23年度より三八支部では、模擬監査というグループ研修を行って来て、若い世代ほど色々な情報を欲しているように思われる。経験豊富な先輩方から事務効率化UPのための豆知識を受け取り、今後の仕事に生かして貰えればと思う。また、事務職員同士の横の連携ができ、もやもやの解消、お互いのスキルUP、情報の共有ができた。

顔を合わせて少しの間でも会話をしたならば、電話もし易い環境になりうるのではないだろうか。グループ研修が、「世代を超えてのコミュニケーションの場」、「お互いの自己研鑽の場」となっているのであれば幸いである。

②「九州新幹線全線開業に伴う学校事務への影響について」

鹿児島県立野田女子高等学校 事務主査 斜木 修
鹿児島県立薩摩中央高等学校 事務主任 石神 陽子
鹿児島県立野田女子高等学校 事務次長 園田 悟

平成23年3月に九州新幹線が全線開業し、移動時間が大幅に短縮された。鹿児島県北薩地区は概ね九州新幹線沿いにあり、新幹線を利用する通勤手当、出張等事務処理に携わる事がある。新しい交通機関の開業、また既存交通機関の廃業は、どの地域でも起こりうる事であり、学校への影響も少なくない。この「一交通機関」である新幹線に着目し、学校事務への様な影響があったか、職員・生徒・事務室等の観点から研究した。

◎事例発表・班別討議(午前・午後の部)

I 事例発表

- 仮題 「もっと互いを知ろう」～補い合う関係から高め合う関係へ～
- 発表者 岩手県立大船渡東高等学校事務長 高橋 章氏

II 班別討議

- 仮題 「これからの私たちに必要なスキルと心構え」
- 討議形式 4班に分かれ、仮題に沿って話し合いを行います。
- 問題提起

団塊の世代からポスト団塊の世代へと続く大量の定年退職により、多くの新採用者を迎え入れる時代となった。しかし世代隔差がもたらす価値観の相違だけでなく、新採用者が臨時的任用職員であったり、他業種で採用された職員であったりと、今までにないギャップを事務室内で感じる機会は少なくない。これに学校事務職員の定数減が拍車をかけ、新任・転入者は先輩の学校事務職員から十分な指導・助言を得られず孤立感を覚え、受け入れる側の学校事務職員も分掌業務が増加するなか更に他者のフォローに時間を割かれ、多忙感を抱えるなどの問題が生じて、それぞれ心身の不調に悩む者もいる。

このギャップや多忙感・孤立感の解消には、学校事務職員同士が積極的に情報の共有を図ること、それぞれの状況を把握し、ともに課題の解決に向けて進んでいく関係を築くことが大切なのではないだろうか。

また、予算状況が苦しい中でも、学校が行わなければならない各種事業は減らすことは難しく、教員とともに、場合によっては保護者まで巻き込んで様々な方向から知恵を出し合わなければ実現困難な状態となってきている。

今までの仕事の進め方にとらわれず柔軟に、学校事務職員同士が、互いのノウハウを継承しつつ隙間を埋め合い、相互補完できるような関係を構築できれば、困難な状況を打開しながら、教員・保護者との協力を一層進められ、様々な事業に積極的に参画しながら、それぞれの学校の目的を実現することができるようになるのではないか。

討議の中では、これからの学校事務職員に必要とされるスキル・心構えに対する考え方を通して、抱えている諸課題への取り組み、成果などの情報交換の場としたい。

○討議の3本の柱

- 1 「今までどおり」が通用しない時代の課題
- 2 「これから」に向き合う学校事務職員が持つべき心構えとスキル
- 3 補い合う関係構築に必要なスキル

＜全国大会会場案内＞

全体会・第1・第3分科会会場
(マリオス)盛岡市民文化ホール 全景



全体会・第1分科会会場
(マリオス)盛岡市民文化ホール 大ホール



第3分科会会場
(マリオス)盛岡市民文化ホール 小ホール



第2分科会会場
(アイーナ)いわて県民情報交流センター 全景



第2分科会会場
(アイーナ)いわて県民情報交流センター
アイーナホール



＜本部活動報告＞

- 常任理事会(東京 小山台会館)
1/10 全国理事会
岩手大会分科会運営等について
- 岩手大会打合せ(岩手県盛岡市)
2/20 会場視察
2/21 第2回岩手大会合同打合せ会

＜編集後記＞

今回の増刊号は、岩手大会開催通知の送付と併せて紙による発行をいたしました。
次回は、大会特集号を7月に発行する予定です。

- 全国協会HPアドレス
<http://zenjikyoo2.jp>
検索名は「全国公立」または
「全国公立高等学校事務職員会」
で可能です。
- 「協会ニュース」並びに「協会HPについて」の
お問い合わせ、ご連絡は次の広報部編集担当まで

茨城県立つくば特別支援学校／富田
TEL 029-877-0220
FAX 029-877-0222
E-mail tomita.hideaki@mail.ibk.ed.jp

群馬県立大泉高等学校／菊地
TEL 0276-62-3564
FAX 0276-62-7318
E-mail kiku-ta@pref.gunma.lg.jp

千葉県立千城台高等学校／角田
TEL 043-236-0161
FAX 043-236-1640
E-mail r.tsuno2@pref.chiba.lg.jp